

煎茶「売茶翁 高遊外」没後250年記念モニュメント建立について

平成25年3月27日
文化政策課

鴨川（北大路橋上流左岸）半木の道に隣接する府立植物園の敷地内に、煎茶「売茶翁 高遊外」没後250年記念モニュメントの建立を計画しています。

記

- 1 趣 旨 今日一般的な飲み方である急須で淹れる煎茶を創始した 売茶翁 高遊外没後250年を平成25年に迎えるに当たり、その偉業とともに京都の伝統的な食文化である喫茶文化において、茶の湯と並び京都に始まった煎茶文化のその意義について、ゆかりの地・鴨川で顕彰するもの。
- 2 概 要 (1) 主体：一般社団法人全日本煎茶道連盟
(煎茶文化に関わる全国団体、このたび顕彰会を設立予定)
(2) 設置：詩 碑（京都府への寄贈）
場所…「半木の道」南端のCOP3モニュメント隣地
内容…同翁の鴨川の地名や景色を含め茶を詠った漢詩記文

遊鴨河煮茶
擔茶具出蝸舍
擇檻泉遊鴨河
鼎裏非人間味
神仙何覓瑤池
鴨河に遊び
茶具を担いて
檻泉を拵んで
鼎裏 人間の味に非ず

茶を煮る
蝸舎を出で
鴨河に遊ぶ



参 考

- ① 売茶翁 高遊外(1675-1763)

禅宗(黄檗宗)僧侶から60歳で還俗、鴨川畔などで売茶をはじめ。同翁を慕い池大雅や伊藤若冲など画家、詩人、儒学者が集い文化サロンを形成。ここでの急須で淹れる喫茶スタイルが全国に広がり、一般家庭に普及。

- ② これにちなみ毎年4月開催の「鴨川茶店」では、昭和48年から40年にわたり煎茶道二條流による煎茶席が設けられ、広く府民に親しまれてきた。

